

甲状腺外科草子 102

藤堂高虎の拠点：津

杉野圭三

藤堂高虎は慶長 13 年（1608 年）に伊賀上野藩主・筒井定次の改易と伊勢津藩主・富田信高の伊予宇和島藩への転封で今治城周辺の越智郡 2 万石を飛び地とし、伊賀国内 10 万石、並びに伊勢安濃郡・一志郡内 10 万石で計 22 万石に加増移封され、**津藩主**となった。

海上交通、通商の重要性を深く認識していた高虎は**堺**を望んだようだが、流石に無理でその代わりに津を与えられたらしい。

御三家筆頭の尾張、本多忠勝の桑名と並び東海地方の重要拠点を任されたことは家康の信頼の大きさを物語るものである。

津へのアクセスは名古屋から JR または近鉄利用で約 1 時間かかり予想以上に不便である。**津城**は近鉄津新町駅から徒歩 15 分の距離で、城入口に高虎を祭る高山神社がある。



高山神社



城への入口

高石垣の城壁も残るが平城の構造主体で戦闘をあまり意識していないようである。



内堀の石垣



入徳門

城内には藩校の正門であった**入徳門**や庭園が残る。本丸址には藤堂高虎公三百五十年祭の記念石碑が展示されている。当時の津市長であった岡村氏が揮毫している。高虎の有名な遺訓、**高山公二百万力条**の第一条である。

寢屋を出るより其日を死番と可得心、かやうに覚悟極る ゆへに物に動する事なし

是可為本意（寢室を出る時から、今日は死ぬ番だと心に決めること。そういう覚悟があれば、物に動じない。本来、こうあるべきだ。）



高山公遺訓第一条

現在、天守閣は現存しないが、城の一角の櫓（**丑寅三重櫓**）は当時を偲ばせる立派な威容を誇っていた。



丑寅三重櫓



高虎公騎馬像

城の見どころは少ないが、勇壮な高虎の騎馬像もあり当時の面影をとどめている。

オーバーツーリズムの昨今ながら、この城には地元の人が散歩で訪れるぐらいで某国の傍若無人の観光客たちも無く、静かで贅沢な時間を過ごすことができた。

（ 一甲状腺外科医の徒然なる随想 ）

2024 年 5 月 30 日